



令和5年度 デンマーク研修 報告書

報告者 城北高等学校教諭 梅本洋子

令和5年度全国高校生介護技術コンテスト最優秀賞の副賞として愛知県の愛生館様よりデンマーク研修を頂きました。文化や人々に触れるとともに福祉国家と言われるデンマークの福祉制度や教育制度、民主主義のありかたについて学び、日本に現状を考える機会ともなりました。

【1. 日程】

- 1日目 熊本 17:40 発→羽田 19:15 着→羽田 21:55 発 (機内泊)
- 2日目 ヘルシンキ 5:00 着 (飛行時間 13 時間 30 分) →ヘルシンキ発 8:00→コペンハーゲン着 9:00→専用車にてコペンハーゲン市内ホテルへ 10:00→11:00 後発便 5 名の方と合流→午後コペンハーゲン市内フィールドワーク (ホテル泊)
- 3日目 午前 専用車にてノーフュンス・ホイスコーレ (国民高等学校) へ移動
午後 講義「福祉国家を支えるシステム・考え方について」
ノーフュンス・ホイスコーレ副校長 Momoyo 先生より (ノーフュンス・ホイスコーレ泊)
- 4日目 午前 高齢者施設訪問
午後 コミュニケーションセンター訪問 (ノーフュンス・ホイスコーレ泊)
- 5日目 午前 障がい者通所施設訪問
午後 青少年教育支援施設訪問
19:00 リフレクション・研修の振り返り (ノーフュンス・ホイスコーレ泊)
- 6日目 午前 専用車にてコペンハーゲンへ移動
午後 コペンハーゲン市内フィールドワーク (ホテル泊)
- 7日目 午前 専用車にてコペンハーゲン空港へ
13:05 コペンハーゲン発→15:40 ヘルシンキ着 (EU 出国審査) → (機内泊)
- 8日目 スコットホルム空港 (給油) →羽田着 16:00 (入国審査) →18:55 羽田発
→熊本着 20:40→21:00 解散



【2. 参加者 10名】

健康経営優良法人 愛生館 代表 小林清彦 氏

健康経営優良法人 愛生館 他2名

淑徳大学 教育学部こども教育学科 教授 矢幅清司 氏

高校福祉教員 2名

城北高等学校 医療福祉科 生徒3名

城北高等学校 医療福祉科教諭 梅本洋子



【3. 活動報告】

① ノーフュンス・ホイスコーレ

北欧独自の教育機関。

ノーフュンスホイスコーレの特徴は、

1. 試験や成績が一切ないこと
2. 民主主義的思考をそだてる場であること
3. 知の欲求を満たす場であること
4. 全寮制であること。
5. 17.5歳以上の者なら、性別、年齢、国籍、障がいの有無に関わらず、誰でも入学することができる。

Be the chang

～世の中に変化を求めるなら、あなた
自身が変ること～
持続可能な人間へ、社会へ、環境へ



民主主義とは、対話からの合意である。対話の重要性を学びました。

2□ 高齢者施設 訪問

居室の入口は、玄関と同じ。
ポストも設置されている。



全居室、アパートメント方式。入所という考え方ではなく、各部屋に入る際は、ご自宅にお邪魔している感覚です。家具はすべて自宅からの持ち込みです。家族の写真も沢山飾られていました。

太陽の子

14～17歳の若者アルバイトとして採用。週に2日、2時間程度。話す・ゲームする等、ご利用者の方と心地よい時間に過ごすことができる。7名採用枠にインスタなどで募集をし、70名程の希望があったそうです。福祉現場の人材不足は、各国共通の課題。まずは若者に施設のことを知ってもらうこと、太陽の子がいる時間に専門職が他の仕事をできることを目的に「太陽の子」というシステムができたそうです。*有料ボランティアのイメージ。

3□ コミュニケーションセンター 訪問

コミュニケーション
機器見学

Indgang~入口~



コミュニケーションの専門機関。聞く・話すに特化した専門機関。他の施設同様にソーシャルワーカーやビジテーター（ケアマネ）によりつながり、支援がスタートするシステムです。



ベッド・車いすなど様々な福祉教具を管理

コミュニケーションセンターに併設されている補助器具センター見学。**持続可能な**生活のためには補助器具を早期から活用することが大切であるとの考えです。この地域の補助器具は全てこちらで管理・レンタルされているそうです。

4□ 障がい者通所施設



日本でいう、知的障がい者の授産施設。利用されている方々は、早期年金を受給されているため経済的な困窮者はいないようです。ここでは、社会性や自分の夢をかなえる、楽しい時間を過ごす場として、生活にフォーカスを置いて支援されているそうです。印象的だったことは、ここで作られたものの対価は社会の基準と同じであるということ。障がい者が安い労働力になってはならないということ。個人を尊重する社会だからこそ、作成した人で価格が変わるようなことはあってはならないという考え方です。

5□ 青少年教育支援



17歳～27歳 特別なニーズを有する学生が学ぶ機関。

日本でいう高等支援学校の桜な仕組み。

発達障害などの診断名を有する学生が、個々の状況に応じて支援を受ける。

就労までの準備期間としている。

基礎的知識（国・数・英など）だけではなく、専門的に木工・溶接・メカニック・IT・キッチンなどの分野学習も実施している。

今回、「世界一幸せな国」と呼ばれるデンマークで「福祉とは」を講話、高齢者や教育施設見学など様々な視点から学ぶことができました。

私が研修に参加して一番印象に残っていることはやはり、日本とデンマークの違いです。例えば、施設等で過ごしている利用者様が突然立ち「徘徊」を始めたとします。これに対してどういった行動をとりますか？私は、高校1年生の時実習先で職員さんが「座っててください、危ないですから。」と止めている姿を何度か見てきました。そのため、たしかに転倒してけがでもしたら大変だ。と思い、止めなければいけない。と自然とっていました。きっと、同じような行動をとっている方は多いのではないのでしょうか。

しかし、デンマークでは、徘徊という行動に対し止めるのではなく、隣を歩きその人が見ている景色を一緒に見て感じるそうです。そして、「徘徊」という行動だけを見るのではなく、なぜその人が立ち上がって歩き始めたのか。昔の記憶からその時間によく買い物に行っていたから？など、全ての行動には全ての意味がある。そこをとことん追求するのがデンマーク流の考え方でした。

問題として見ている視点が日本と大きく違うなと感じました。このデンマークの考え方こそが、「その人らしく・自分らしく」に繋がるのではないかと感じました。

日本の介護は本当に利用者様を一人の人間として尊重し、その人らしい生活が送れるよう支援できているのでしょうか？心から寄り添うとは？利用者様が心から「この生活こそが自分だ」「幸せだ」と感じられるかで、介護をする私たちは「その人に適した介護」や「福祉」という言葉がはじめて使えるのではないかと私は思います。

私は作業療法士になるという夢の実現に向け4月から専門学校に入学します。この病気やけがの人にはこの支援だ。とただ行うのではなく、その支援にプラスして患者様の趣味や特技などライフヒストリーにも目を向け、自分の個性も活かした支援とこの人だからこそ、この支援だと胸を張って言える唯一無二の作業療法士になれるよう更に学びを深めていこうと思います。

今回デンマーク研修をプレゼントして下さった愛生館様に心から感謝いたします。



デンマークと言えば、福祉を学んでいる人や携わっている人は、「福祉先進国」や「バンクミケルセン」のイメージを持つのではないのでしょうか。私もこのようなイメージを持っており、デンマークの福祉がなぜ進んでいるのか、どのように福祉を運営・提供しているのか知りませんでした。今回、介護技術コンテスト最優秀賞の副賞として、愛生館様より福祉先進国と言われるデンマークを学ぶ機会をいただきました。

研修では、ホイスコーレと呼ばれる成人教育機関に宿泊しながら、老人ホームや障害者施設など福祉施設の見学を行いました。老人ホームでは、一部屋一部屋がまるで家のようにシャワーや扉に表札、郵便受けがあったり、テーブルやソファなど馴染みのある家具を持ち込むことができたりなど利用者が安心して自宅のように過ごせるような仕組みがありました。また、障害者の通所施設では、障害者の方々が制作した商品を他の企業の価格よりも下回らない価格になっていることに衝撃を受けました。他の福祉施設でも、日本の福祉制度との違いや類似点を学ぶことができました。

見学した当初、私は「日本でもデンマーク式を取り入れたら、施設に入所しても安心してすごせるのではないか」と思いました。しかし、話を聞いていくうち、そう簡単に言えることではないと気づきました。なぜなら、日本とデンマークとでは、文化や歴史、考え方が全然違うからです。国の大きさや人口も違います。デンマークの消費税は25%で、日本よりも高い金額を納税します。そのため、日本とデンマークで提供できる福祉に違いができることも当然だと気づくことができました。

私は、違いができることは当然であっても、デンマークからの学びを活かすことで日本の福祉をより良くすることは可能だと考えます。そのためには、デンマークの福祉を「憧れ」にせず、それをどのようにしたら日本で導入できるのかを考えていく必要があると思います。私は大学に進学するので、日本の福祉をより良くするために勉強したり、活動に参加したりなど私にもできることを行っていきたいと思っています。

私にとって初めての海外経験がこのような実りのあるものになり、とても嬉しく思っています。また、同じデンマーク研修に参加した11名の皆様と先生からも多くの刺激を受け、研修がより良いものになったと感じています。最後になりますが、このデンマーク研修を贈呈してくださった愛生館様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



世界一幸福と言われる国「デンマーク」へ、日本とは異なる文化・福祉を学びに研修に行ってきました。

私が特に関心を持ったところは、2日目に訪れたアパートメント形式の高齢者施設です。日本で言う特別養護老人ホームに似ていて、在宅支援では生活が難しいとされた方が入居します。施設とはいえ、自分が生活をしていく場所は家のような落ち着く場所を望む人が大半だと思います。私がこれまでお世話になった実習先では、アットホームな雰囲気を出すために「ご飯をホールで炊いて匂いを感じてもらおう」などの体感的な工夫をされていましたが、この施設では居室そのものを「自宅」として扱っており、部屋の中は利用者様の思い出が詰まった家具で部屋が充実していました。自分の家の匂いが染み付いた家具、タンスについた傷にもどれだけの思い出と価値があるか。

デンマークのこの施設は、最期まで自分の1番落ち着くところで過ごすという誰もが持っている願いを叶えてくれる、私の憧れの施設の在り方そのものでした。

また、国の政治を客観的に見ることで日本の課題の理解も深まりました。デンマークでは国→州→地方自治体の政治体制ですが地方自治体では給料がなく、仕事と政治活動を兼業して仕事終わりに集まり話し合いを行うそうです。金の絡まない政治は今の日本に必要なカタチだと思います。目指す国家像は違えど他国の政治や制度を勉強するに越したことはなく、後1年で投票ができるようになる身としては政治について考える機会にもなりました。

10人を超える大人数での研修ということで不安もありましたが、職業や年齢も違う皆様一人一人、目的や思いも多様で私も刺激を受け、この研修により力を入れることができました。自分の世界だけでものを考えていた私はデンマークを訪れ一層広い世界を知り、視野が広がった気がします。

そして介護技術コンテストでの優勝は、達成感や喜びの気持ちだけでなく、新たな出会いや文化の発見、そして私にさらなる成長の機会をくれました。このような素晴らしい研修をプレゼントしてくださった小林さんには感謝の気持ちしかありません。デンマークから学んだライフエデュケーション(生涯学び続ける)の心で、日々の学びや感謝の気持ちを大切にしていきます。



全ての部屋に介助用リフトや利用しやすい洗面所が設置されています

【ノーフュンスホイスコーレでの福祉研修を修了し、修了証・バッヂを頂きました😊】